

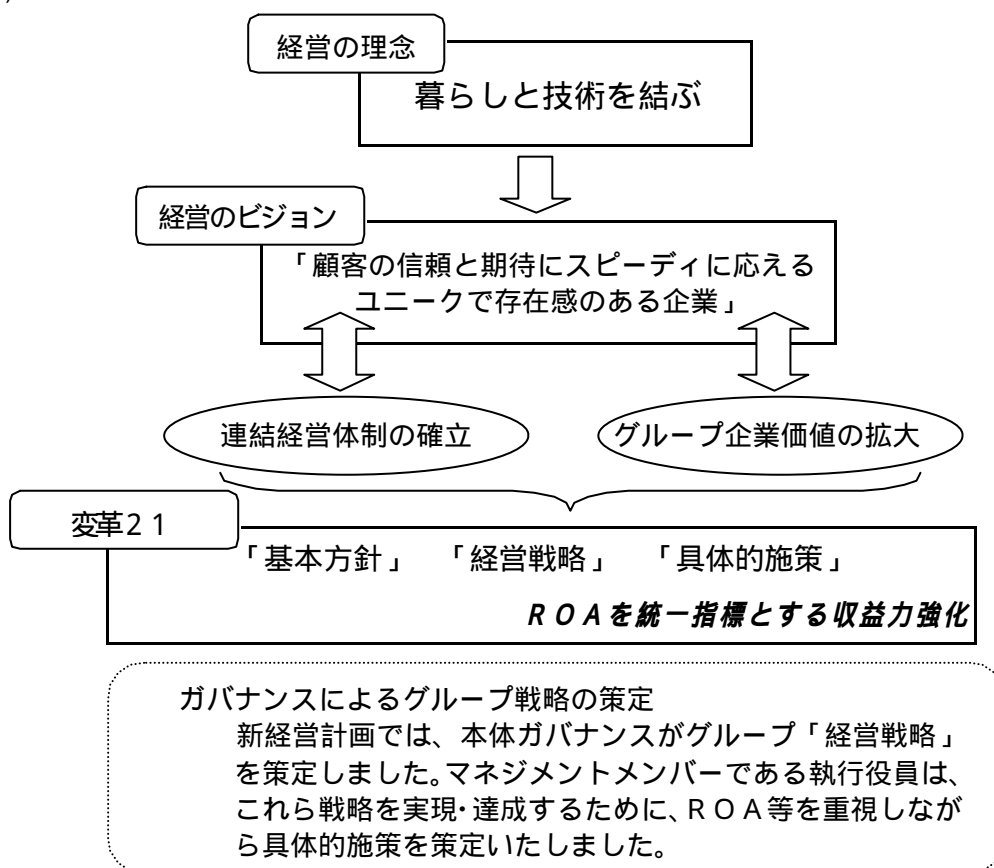
中期経営2ヶ年計画について
 - グループ・プログラム『変革21』 -
 (2001年4月~2003年3月)

当社は、2001年4月をスタート点とする中期経営2ヶ年計画 - グループ・プログラム『変革21』 - を策定しました。新経営計画は諸施策効果の飛躍的実現のために、1998年10月以来進めてきた「企業体質強化のための総合対策」(中期経営3ヶ年計画)の仕上げの2000年度を、グループ会社を含め収益体質の一層の強化と経営体制の刷新を図るなどの助走期間としました。当社はこのグループ・プログラムにおいて、本体および関連会社一体となって経営改善・強化のための戦略・施策を積極的に推進していく所存です。

[新経営計画策定の考え方とポイント]

1. 新経営計画策定の考え方と目標指標

(1) 経営のビジョン



- 基本方針 : 顧客の信頼と期待に応える体制確立
 技術力に基づく価値ある製品・サービスの提供
 連結経営体制の確立
- 経営戦略 : コーポレート戦略(グループ体制整備 他)
 (内容後述) 研究開発戦略(グループ・単体)
 事業戦略(グループ・単体)

(2)目標指標

	(億円)	1999年度	2000年度	2002年度
連結	売上高	2,931	2,800	2,860
	経常利益	76	80	90
	ROA	1.9%	2.1%	2.5%

	(億円)	1999年度	2000年度	2002年度
単体	売上高	1,341	1,020	1,080
	経常利益	35	41	50
	ROA	1.3%	1.6%	2.1%

ROA: 総資産経常利益率

2. 新経営計画の戦略とポイント

[A] グループ戦略

(1)コーポレート戦略

連結経営体制の確立 グループ企業価値の拡大 財務体質の一層の改善
管理業務の効率化 環境変化に適応する人事システムの構築 など

(2)研究開発戦略

グループ事業運営に沿った研究開発体制の強化と効率的運営
グループ固有技術をベースに中期的展望に立った研究開発

(3)事業戦略

グループ事業ドメイン管理(以下5区分)

- ・高分子事業 ・環境事業 ・機能材事業
- ・生活健康事業 ・繊維事業

高分子、環境、機能材、生活健康事業に属するグループ会社は本体事業本部と、繊維系グループ会社は繊維2社(ユニチカファイバー(株)、ユニチカテキスタイル(株))とそれぞれ、連結経営管理を行う。

上記5事業以外のグループ会社は事業サポート会社と位置付け、グループ事業の効率化を推進する。

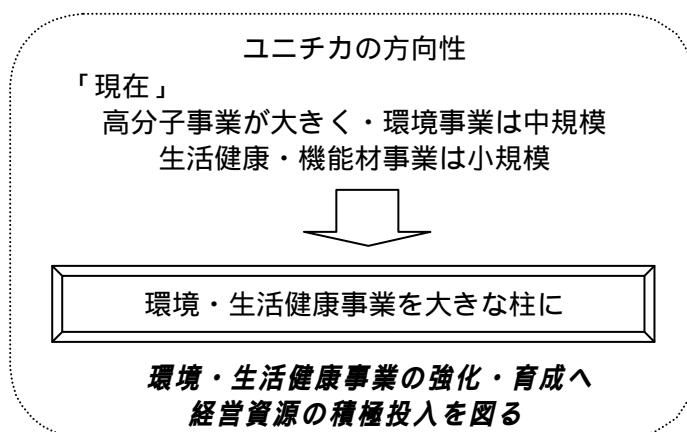
事業力の重点強化分野～「海洋深層水飲料」・「ガラス繊維」事業などを強化・拡大

グループ事業では、健康ニーズの高まりから伸長している「海洋深層水飲料」事業、IT関連機器の多様化から需要が増加しているICクロスなど「ガラス繊維」事業や、また、本体事業の競争力を生かして海外展開を行っているフィルム事業等は、積極的に設備投資を行うなど、一層の強化・拡大を計画しています。

(4)グループ体制整備戦略

グループ会社の統合を積極的に推進し、グループ事業の効率化を実現することにより事業力の強化を図ります。

[B] 単体戦略(事業戦略)



(1) 事業の方向性

高分子事業～包装フィルム、スパンボンドなど当社が強い事業は、積極的に設備投資するなど増強

環境事業～「地球・環境」をテーマに顧客ニーズを具体化、提案型事業として強化・育成

機能材事業～大型事業へのステップアップと収益力強化

生活健康事業～環境変化・顧客ニーズに対応した成長事業として拡大

設備投資 2001～2002年度 2年間で150億円	⇒	1999	2002	売上高	経常利益
		高分子		漸増	1.2倍増
		環境		1.3倍増	2倍増
		機能材		1.2倍増	1.2倍増
		生活健康		1.3倍増	1.5倍増

(2) 事業の重点強化分野～高分子事業の高付加価値・差別化製品と環境事業などに注力

当社固有の技術とマーケットニーズをベースとして、特に高分子事業(フィルム・スパンボンド中心)において高付加価値製品、差別化製品の開発を一層推進し、収益力の強化を図るとともに、設備投資を実施し、売上高拡大に努めます。汎用品の販売数量の拡大については収益強化を優先し、生産性向上等により対処します。

「地球・環境保護」ニーズへの対応として、環境事業においては、大型焼却炉分野に本格参入し、既に受注もいたしました。環境事業にはグループ経営資源の集中投入により一層の技術力・営業力の強化を図っていきます。

また、脱臭・発がん性物質(トリハロメタン)除去用途等で需要が拡大している活性炭繊維事業も、新たに機能材事業分野として事業力の強化に注力します。

既存事業においては、以下の成長分野に注力します。

[主要分野の例示]

- ・高分子事業～容易に引裂ける包装用フィルム(高級菓子など)
飲料缶用ラミネートポリエステルフィルム(アルミ製飲料缶)
強さと柔らかさを併せ持ち、ヒートシール性に優れた複合スパンボンド「エルベス」
- ・環境事業～上下水高度処理技術による受注拡大を強化するとともに、焼却炉事業を拡大

(3) 新事業の育成・強化

「生活健康事業」を成長事業として拡大

当社を取り巻く経営環境においては、顧客・マーケットから新たに「環境・健康」をテーマにしたニーズが高まっていることが変化の一つとして上げられます。ここに着目し、グループ事業運営の明確化を図る中で、「生活健康事業」を成長事業として拡大していきます。

「生活健康事業」は、従来からカテーテルなどの医療材料と酵素診断薬の製造販売を行ってきたメディカル事業を核として、既に中央研究所で開発済みの機能性飼料添加剤や当社製品・技術を応用したコンシューマケア商品、さらに在宅医療・看護関連などの事業を拡大します。

[主要な製品・サービスの例示]

- ・機能性飼料添加剤～サルモネラ・大腸菌等有害細菌の腸内定着抑制のための飼料添加剤(商品名: コッコエース～鶏豚用)
- ・コンシューマケア商品～スパンレース(綿不織布)のカット製品
- ・在宅医療・看護関連～小病院・個人向け簡易診断装置(糖尿病など)

生分解性ポリマー使用製品(フィルム・スパンボンド・繊維など)の拡販

(商品名: テラマック<資源循環型商品>)

当社では1999年より米国カーギル・ダウ社と、トウモロコシから作られるポリ乳酸を原料とした生分解性ポリマーの供給を受け事業化を進める商業契約を結び、地球環境にやさしい資源

源循環型プラスチック(テラマック)の各種製品の生産を始めています。
 このポリマーによる製品(フィルム・スパンボンド・繊維など)は、土中でバクテリアにより分解されるなどの特性から、農業・産業用として用途拡大が期待されています。当社は競合他社に比べ、繊維・非繊維で最も幅広いポリマー製品グループを保有しています。この強味を活かして既存製品の代替、新分野での需要に対応するための全社横断的な組織で、開発・生産・販売の戦略を立て積極的に事業化を推進していきます。

以上

(ご参考)

ユニチカファイバー(株)

(主要施策)

- ・「総合対策」によるコストダウン基盤をベースに「変革21」で更に徹底した総コストダウンにより各素材の黒字化を図る。
- ・ナイロン事業は吸水ナイロン「ハイグラ」、抗菌ナイロン「バイオライナー」等の差別化拡大
- ・エステル事業は長繊維では「ゼットテン」等当社の得意分野の2成分系系の拡大。
- ・短繊維では耐熱パインダー「キャスベン」の拡大。
- ・「テラマック」の繊維事業展開を促進。

(収益目標)

(億円)	1999年度	2000年度	...	2002年度
売上高	280	560	...	570
経常利益	1	2	...	8

'99年度は下期のみ

ユニチカテキスタイル(株)

(主要施策)

- ・エコロジカル繊維「リヨセル」「ユニエコロ」の強化
- ・テキスタイル事業と製品事業融合によるシナジー効果追求

(収益目標)

(億円)	1999年度	2000年度	...	2002年度
売上高	271	315	...	330
経常利益	1.5	3	...	4